

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 38

1. 基本情報							
<1> 事業・業務名		配水管布設事業(輻輳管整備)			<2> 事業・業務の別		事業
<3> 選定基準		② 平成29年度新規・継続重点事業			<4> 継続評価・新規評価の別		継続評価
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり			<6> 担当部(局)		建設水道部
	中項目	5-4 住みたい住み続けたい住環境			<7> 担当所属		水道課
	小項目	5-4-2 上水道			<8> 担当係等		工務係
	施策	配水管布設事業(輻輳管整備)					
<9> 根拠法令・計画等				<10> 関連・類似事業			
<11> 会計		水道事業企業 会計		<12> 予算科目		1 款 1 項 1 目	
<13> 実施期間		11 年度 ~ 年度		<14> 全体事業費		732,720 千円	
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		輻輳管の解消として給水管を整理統合する新たな配水管の整備							
目的	<17> 事業・業務の目的	安定した水道水の供給及び老朽化した給水管の漏水の防止							
	<18> 事業・業務の対象	公道上の縦断方向に複数布設された給水管							
手段	<19> 平成29年度の活動内容	事業箇所には、配水管(本管)が布設されておらず、複数の給水管が布設されているため、新たな配水管(本管)を布設し、輻輳管の解消を進めていく。							
	<20> 活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	工事件数	件	6	5	6	2	33.3%		
成果	<21> 事業・業務の成果	毎年、輻輳管の整備を実施し、輻輳管が解消され、計画延長が減少となる。							
	<22> 成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	工事延長	m	1,290	1,000	1,100	730	66.4%		
コスト ~資源の投入量	<23> 投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	52,886	49,012	52,878	52,763	99.8%	
		事業費等	千円	50,000	46,126	50,000	49,885	99.8%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円	50,000	46,126	50,000	49,885	99.8%
一般財源	千円								
人件費	千円	2,886	2,886	2,878	2,878	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.4	7,214 × 0.4	7,195 × 0.4	7,195 × 0.4				
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	輻輳管となっている箇所を見つけ出す手段は現状登録内容を基に図示されたものを人が調べた結果であり、毎年増減が生じるものであるため継続した管理にはむいていない。より正確に管理するためにGISシステムを用いた輻輳管の管理を検討する必要がある。
		<25> 手段や実施手法の妥当性	2.手段を見直す必要がある		
	有効性	<26> 成果の向上余地	1.向上の余地なし	理由	予算により限られた延長の輻輳管を解消しているため、これ以上の成果向上の余地はない。
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	1.削減の余地なし	理由	給水人口の増加により輻輳管が増加し、追加の事業費が必要となる可能性があるため、解消していく上で事業費の削減の余地はない。
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正	理由	受益者負担の余地はない
	<29>総合評価		2.改善の余地がある	理由	輻輳管の管理が人の手でされていることから毎年の増減を明確にすることが難しいと考えられるため、GISシステム上で管理できるよう検討し改善する余地はある。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等		改善点として輻輳管の管理方法が挙げられるが、事業の進め方については現状維持でやむを得ない。		
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	漏水対策は喫緊の課題であり、頻発個所を抽出し目標年を定め計画的に整備を進めている。拡張工事費に占める割合は13%であり、減圧解消工事やループ化工事も急がれることから、進め方については現状維持でやむを得ない。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	輻輳管は漏水の原因となる為、早期に完全解消することが望まれるが、給水区域内普及率が91%と新規配水管の整備も進めなければならない現状を考えれば、現状維持もやむを得ないと思われる。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	・輻輳管の解消 ・配水管(本管)の整備	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	52,878	52,878
	<34>活動・成果目標	・安定した水道水の供給 ・老朽化した給水管の漏水防止		事業費等	千円	50,000	50,000
				人件費	千円	2,878	2,878